

8 シロヒレタビラ

(コイ科)

兵庫県ランク:A

Acheilognathus tabira tabira

環境省ランク:EN

種の概要

全長は7 c m程度。流れが緩やかな河川中・下流域、それに続く用水路に生息する。付着藻類や底生動物を食べる雑食性。産卵期は春から初夏で、カタハガイ、イシガイ、ドブガイなどの二枚貝の鰓に卵を産み付ける。日本固有亜種で濃尾平野以西、琵琶湖・淀川水系から岡山県までの限られた地域に分布する。



写真提供:兵庫県立人と自然の博物館(撮影:増田 修)

県内における生息状況及びその他特記事項

県内では瀬戸内海側の千種川、加古川、武庫川水系で確認されている。中でも武庫川は兵庫県のシロヒレタビラにとって最後の砦ともいえるべき場所であるが、近年、個体数の減少が著しく絶滅寸前である。

保護上の留意点

産卵基質がイシガイ科の二枚貝であり、この二枚貝のグロキディウム幼生は主にヨシノボリ類に一時寄生するという複雑な関係の中で本種はその生活史を成立させている。河川改修等で一旦この関係を崩すと回復には長期間を要する。2002年に河川改修の行われた武庫川上流区間では、10数年経った2016年に至っても産卵基質となる二枚貝の個体数が回復しておらず、本種も絶滅寸前にまで減少したままである(田中, 2014)。

県内分布

神戸市、尼崎市、三田市、加古川市、赤穂市、篠山市、丹波市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	○
	環境	○
	捕獲	○
	遺伝	
特殊性	特殊	○
	孤立	
学術性	極限	○
	限界	
	希少	○

